

1 ねらい

【修学旅行】

- 「『ここにしかないもの』を見る、知る、学ぶ!」を修学旅行のスローガンとし、あらゆる場で
 - ①勤勉であること、②人を支えること、③社会のために、を考えて行動することが目標。
- (1) 他県の自然・文化・産業等に接することにより、広い知識を得る。
 - (2) 集団生活の規律、公衆道徳の大切さを理解し、節度ある生活、責任・協力の必要性等を体得する。
 - (3) 寝食を共にする中で、生徒相互、生徒と教師のふれあいや理解を深める。
 - (4) 中学校生活の有意義で楽しい思い出をつくる。

【進路学習】

- 12月に高校の先生を招いての高校説明会を行い、その後上級学校調べを行い具体的な数字や資料にふれることで自己の進路について真剣に考える機会とし、来年度の進路選択の一助とする。



2 生徒の活動の様子

【修学旅行での取り組み】

吉本新喜劇観覧、金閣寺参拝、竜安寺参拝、ヤフードームバックヤードツアー、NHK福岡放送局見学、明太子漬け込み体験、太宰府天満宮参拝

【進路学習】

将来の進路について考える、高等学校の学科について知る、公立・私立・国立高校の違い、入試制度（一般入試・推薦入試・特別推薦入試・特待制度）について知る。

3 成果・課題

【修学旅行】

- 行動班や生活班の編成で各生徒に係分担ができ、修学旅行前の準備や話し合いの中で自主性を高めながら、責任を持って自分の仕事に取り組む態度が見られた。実行委員や班長といった集団のリーダーが育ち自主的に判断して行動できるようになった。学年集団の質向上のためにより一層リーダー養成に心がけ、そのリーダーを中心として常にけじめをつけて行動できるよう指導を継続する必要がある。
- 修学旅行前の集会で、「ルール・マナー・自己判断」という話をした。集合時間など時間を守って行動できるなどの乗り物のマナーや、旅行の随所で集会での話を意識した行動があり旅程が円滑に進んだ。こうした学年の長所を生かした行動（指示待ちではなく自ら考え正しく判断し行動するたくましい生徒の育成）を、より一層尽力すべきである。
- あいさつや話を聞く態度は、校内生活において指導されていることが、校外活動においても実践できたことは大きな成果といえる。

【進路学習】

- 高校説明会では、高校の先生方の話を熱心に聞くことで、自分の進路についての意識が高まり、その後の生活態度や学習態度に良い変化が見られた。その後の上級学校調べで、イメージを持って取り組むことができ、今後の進路指導にも大きく役立つ学習をした。
- 2年次でのこの取組を3年次でのオープンスクール参加や適切な進路選択につなげるために、継続した指導を行う必要がある。